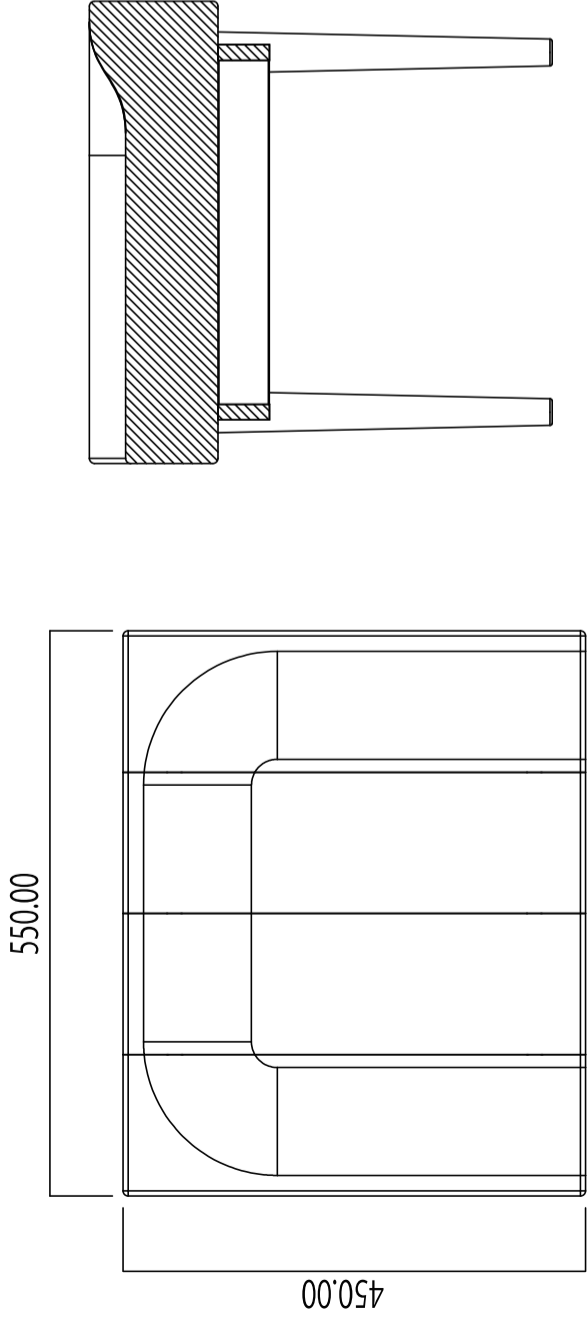
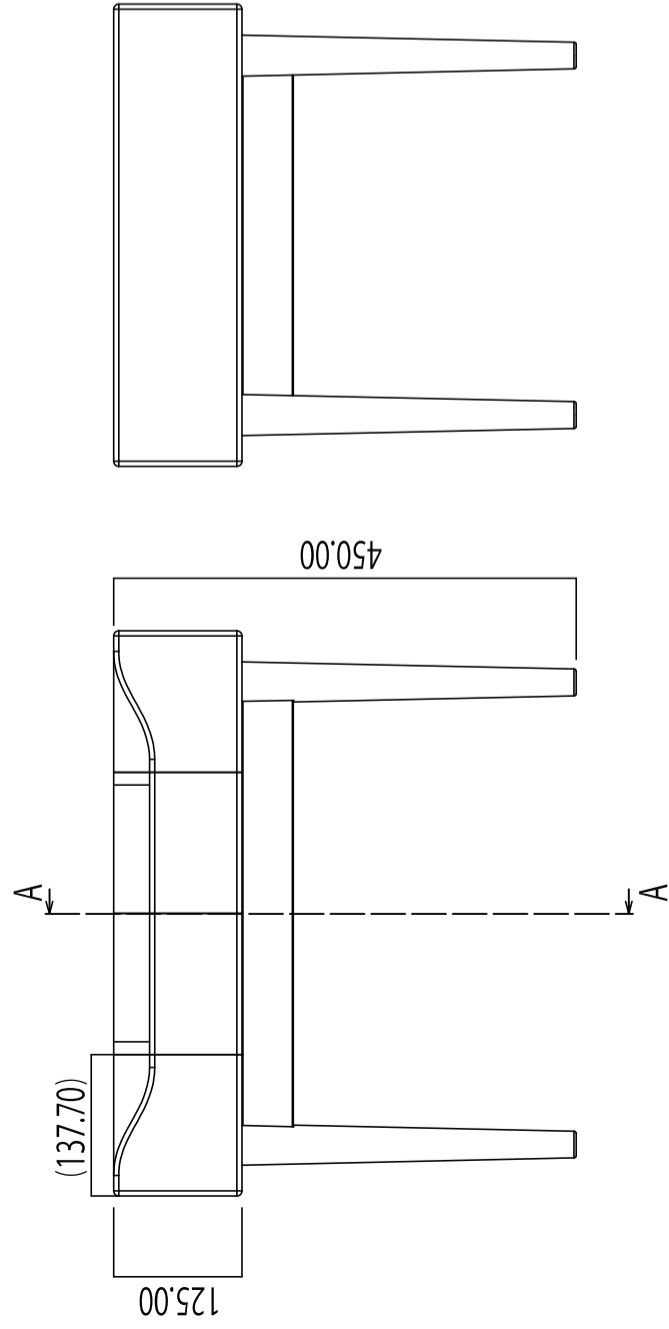


Logstool

京都府内産針葉樹の表情を美しく魅せるスツール



断面図 A-A

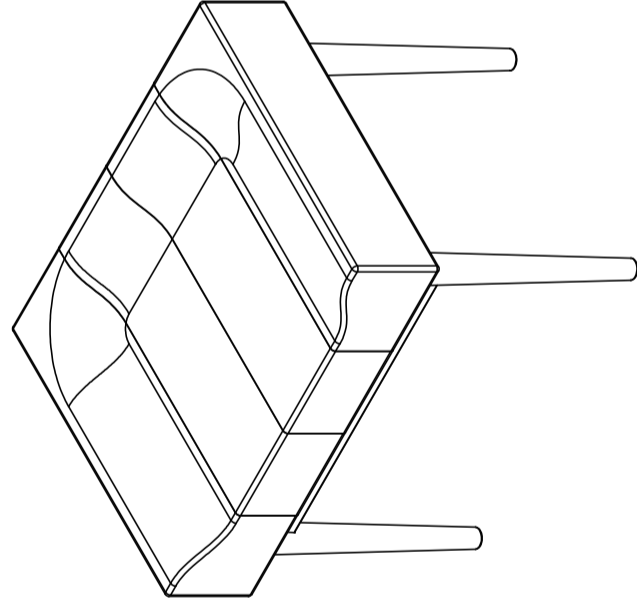


設計意図

座面は、4本の丸太を接合し切削し研磨をすることで年輪の表情を象徴的に引き出します。脚を繋ぐ貫は、座面裏に配置し強度と安定性を確保しつつも足元をすっきり見せます。これにより商業施設等に置いた際には、野暮な印象を無くし現代の空間に適した椅子となることを意図しています。

同じ形であっても使う材により椅子ごとに表情が変わり、並べて配置をした際には個性豊かな年輪の模様が空間に木のぬくもりを演出します。

ボリュームのある座面とモダンな脚のコントラストは、「伝統と先進」、「緩と急」、「柔と剛」、様々な側面を持つ京都らしさを表し、心地よいバランス感を狙っています。



意匠趣旨

京都の職人はスギに様々な工夫を施し、生活に活用してきました。そこには先人の絶え間ない努力と技術を継承してきた歴史があります。また、伝統を大事にしつつも新しいものを取り入れ進化していく柔軟性は、まさに京都の風土・気質であると言えます。

京都府内産のスギが持つ緻密な年輪は、「歴史の積み重ね」「継承された技術」を表していると解釈しました。さらにスギの①軽い ②柔らかい ③経年変化により表情が変わる という特徴を加味し、スギの丸太を使ったスツールを提案します。

京都府内産のスギの特徴は「美しい表面」とその「磨く技術」と言われることがあります。新しい価値として「緻密な年輪」を強く押し出していくのはどうでしょうか。

Logstoolは、座面に4本の丸太を使用し表面を切削・上面を窪ませることで年輪を立体的に表出させつつ体を優しく受け止めます。また、脚部は水平垂直にすることでモダンな印象を醸し、現代の生活空間にも馴染む意匠としました。座面の大胆なボリュームとモダンな脚の緩急により存在感はありつつも圧迫感のない椅子を目指しました。



丸太を接合し、切削することで年輪の美しさを引き出す



施設等で、複数脚並べた時の一体感

